

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 3 月 8 日

事業所名 特定非営利活動法人子ども館ゆめのたまご

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			十分スペースがあり、訓練等行っている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			常に定員より多くいる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		家庭的な療育をめざしているので、十分ではないかもしれないが、改善はしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			話し合いや記録により、共通認識が深まった。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			常に保護者の意向等を把握して改善につなげていけるよう努力している。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		評価には至っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			必要と思われるものは積極的に受け、復命書を提出し、全員の共通認識とする。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			子どもの様子と保護者のニーズ等、十分話し合えた。
適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		
	11	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			今年もコロナ禍のため地域支援はできなかったが、家庭支援は必要に応じて行うことができた。
	12	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			十分にやり取りしながら行っている。
	13	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			常に話しあっている。
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			工夫している。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を敵宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			「何でもノート」「今日の目標」「ヒヤリハット」等で共通認識を確認。支援の内容や役割分担も確認。
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			「目標とふり振り返りノート」を活用し、記録と共に共有している。

	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか		○		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			ほとんどの利用者は関係機関からの依頼もあり、連携し、良い支援が十分行われている。
	22	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○			
	23	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○			大変良い連絡体制が整えられている。
	24	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			関連する幼稚園、保育園等と連絡を取り、訪問し、支援内容や情報等、相互理解を図っている。
	25	小学校や特別支援学校（小学部）との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			認可外で障害のないお子さんも受け入れているので、一緒に活動している。
	28	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡ノート、直接的な話し合い等し、良く理解し合っている。
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか		○		ペアレント・トレーニングは毎年専門家の研修があるので、参加を促している。チラシ配布等協力している。
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			
	32	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			
	33	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			十分行っている。
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		試食会、懇談会等計画していたが、コロナのため、実行できなかった。
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			常に心を寄せ、迅速に対応している。
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月おたより等出している。

	37	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			十分注意している。
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			常に大切に考えている。コロナ前はイベントを毎年行っていた。
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			十分行っている。
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	42	事前に、予防接種やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○			
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			少しの事でも検証し、次の支援に向けて努力をしている。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			委員会を立ち上げ開催し、見直しをしている。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか			○	身体拘束の経験なし。必要ならば保護者と話し合う。

○ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

<一年を振り返って>

今年はコロナ以外の感染症にも見舞われ、一時期欠席者が例年にない程多かった。より一層の感染対策を心がけた。一人一人により良い支援をと毎日の活動に「目標とふり返り」「ヒヤリハット」「何でもノート」で共通認識に努め、充実した話し合いできめ細やかな支援計画ができた。

医療的ケア児の増加 ・Zoomでの関係者会議を行い、連携をとった。

・一人一人の食事形態を医師と連携をとって進めた。

コロナで行事ができなかったが、毎月の職員会議では実りのあるものと深めることができた。